

平成 30 年度 第 1 回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日 時：平成 30 年 5 月 31 日（木）9 時 30 分 ～ 11 時 10 分
- 場 所：市民交流プラザ 5F 小会議室 2 A・B
- 出席委員：松原座長、山本副座長、及川委員、肥塚委員、岡本委員、堀江委員、服部委員、肥田委員、秦委員、遠藤委員、青木委員、松浦委員、深尾委員
- 欠席委員：加藤委員、神部委員、草津市まちづくり協議会連合会
- 事務局：千代理事（副所長）、本村調整員、中瀬参事、溝内参事、中西主査

1 開会

【事務局】

皆さまお揃いですので、ただいまより平成 30 年度第 1 回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。本日はご多忙の中、早朝より御出席賜りまして誠にありがとうございます。議事に入ります前に配布資料の確認をさせていただきたいと思っております。本日の次第、資料 1、資料 2 でございます。それでは、次第に沿いまして進めて参りたいと思っております。開会にあたりまして、座長の松原先生から御挨拶をお願いします。

【座長】

皆さんおはようございます。座長の立命館大学の松原でございます。アーバンデザインセンターびわこ・くさつは平成 28 年 10 月に設立し、昨年 8 月に西友南草津店 1 階に移転しました。それから約 10 か月が経過しました。施設が新しくなり、アーバンデザインセンターびわこ・くさつとしても次の段階に進む時期になっているかなと思っております。後ほど、法人化検討ワーキングの検討状況の報告をしていただくこととなりますが、その議論も皆さま宜しくをお願いします。

2 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会開催要綱および委員について

【事務局】

ありがとうございます。続きまして、次第 2 のアーバンデザインセンターびわこ・

くさつ事業懇話会開催要綱および委員について、資料1に基づき御説明させていただきます。アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業懇話会開催要綱ですが、第2条第1項の懇話会の委員でございます。平成29年3月29日に滋賀医科大学と平成30年2月23日に龍谷大学・龍谷大学短期大学部と包括協定を締結させていただきましたことから、委員定数を15名から17名に改めております。次に、今年度初めての事業運営懇話会でありますことと、委員の変更もでございますことから、大変お手数ですが、皆さまから自己紹介をお願いしたいと思います。なお、本日、委員名簿10番の草津商工会議所の加藤委員と11番の滋賀大学の神部委員より御欠席の連絡をいただいております。また、6番の草津市まちづくり協議会連合会につきましては、先日役員改選が行われ、新委員様の推薦をいただいておりますことから、空欄になっております。それでは、座長から順に自己紹介を委員の皆さまよろしくお願いたします。(松原座長から名簿順に御挨拶。その後、事務局より御挨拶。)続きまして、次第3に移りたいと思います。ここからは司会進行を松原座長をお願いしたいと思います。松原座長宜しくお願いたします。

3 報告

【座長】

それでは次第3の報告事項につきまして、3点ございます。一つ目は平成29年度活動テーマと実績についてということで、この内容について事務局から御説明いただきたく思います。それでは、事務局お願いたします。

【事務局】

それでは、事務局から平成29年度事業報告をさせていただきます。

(中瀬参事から、資料に基づき事業報告説明。)

【座長】

ありがとうございました。平成29年度事業の実績について御説明いただきました。ただいまの報告について、御意見、御質問があればお願いたします。

【A委員】

スライド番号15の利用状況について、オープンスペースのカウントはどのようにしているのですか。

【事務局】

利用された方の来室時間、人数を事務室にてカウントしています。

【A委員】

利用している側としては、来室して職員の方に声を掛けられることがなくオープンスペースを使用して帰って行くことが多く、よく利用している人にとってはそれで良いと思いますが、そのようなカウントをされているとは気付かなかったのでびっくりしました。移転直後はよく事務室からオープンスペースの様子を見ていらっしやったと思いますが、初めて利用される人がいてもそのことに職員さんが気付かないことが多く、もう少しオープンスペースへ出てきてほしいです。最近は小学生がオープンスペースで自習をしている様子が見られ、自由に出入りしています。先日、小学生が自習していて、テーブルの上にお菓子が散らかっていたにも関わらず、職員さんは誰も気付かずに、私が小学生に注意をしました。事務室の職員さんの机が室内の壁面に向かって配置されているので、もう少し入り口側に向かうように工夫できれば良くなると思います。

【座長】

利用者と事務局との距離を縮め、お互いの状況が分かるような状況が良いというご意見ですね。

【B委員】

資料のまとめ方として、資料スライド番号12はスライド番号15の後にした方が、事業成果（到達点）と課題という構成が適切だと思います。

【座長】

御指摘のまとめ方が分かりやすいと思います。センター長からはいかがでしょうか。

【及川センター長】

昨年8月に移転してUDCBKの認知度が上がり、ただ人が集まるのではなく、あくまでもアーバンデザインセンターなので、まちづくりについて語る場所となるようなプログラムを作っていくことが課題だと考えております。

【座長】

それでは、二つ目の平成30年度の事業計画について事務局より御説明いただき、その内容を踏まえて委員の皆さまからお気づきの点について御意見をいただければ

と思います。

【事務局】

それでは、引き続き資料2のスライド番号17をご覧ください。

(中瀬参事から、資料に基づき事業計画説明。)

【C委員】

スライド番号17の平成30年度のテーマにつきまして、「情報」「文化」「自然」とされており、昨年度は「交通」「文化」「琵琶湖」であり、「交通」が消えて「情報」に変えたのはどのような意図がありますでしょうか。

【事務局】

昨年度テーマの「交通」をなくすということではなく、昨年度の取組から出てきた課題を抽出し、その結果として「情報」とさせていただきました。昨年度の事業実績から、「交通」は切り離せないテーマだと認識しております。

【C委員】

「情報」は様々な分野にわたるキーワードだと思います。果たしてアーバンデザインセンターで議論していける内容なのかどうか、限界があるのではないかという疑問が残ります。「情報」よりは住みやすさを考えるという点から、「交通」の方が重要ではないかと思います。南草津駅前朝も夜も非常に混雑しておりますし、2045年まで草津市は人口が増加していくと考えられているので、もっと考えていく必要があると感じております。草津市外から移り住む方は、草津市は交通の便が良いということで来られているので、交通について市民が考えることが大切だと思います。しかし、現在の行政ではその議論を集約できる場所がなく、特に新たに住まれる住民の意見を聞いていく仕組みが重要であると思います。それを担っていくことがUDCBKに求められていると考えます。よって、「交通」というキーワードは消さない方が良くと思います。

【A委員】

UDCBKのセミナーは草津市に住んでいる人たちのためになるべきものですね。そうであれば、住民がもっとセミナーに参加したくなるような、例えば交通について困っている小学生たちがアーバンデザインスクールを受けられるような呼びかけをスタッフや私たち懇話会メンバーがした方が良くと思います。昨年度の未来創造セミナーについて、議員さんやいつも来ている参加者ばかりなので、UDCBKが

開設して2・3年目になることから、ただ単にオープンスペースで騒いでいるだけでなく、もっと地域の小学生に参加してもらえるようにこの1年は考えてもらいたいと思います。社会実験事前調査事業で立命館大学と京都橘大学、成安造形大学がそれぞれ事業を実施しましたが、そこにどれだけの市民が参加しているのかということ成果として出してほしかったです。

【D委員】

今年度テーマとして「情報」を取り上げていますが、それは昨年度の事業展開の中でどのように課題として認識された結果、「情報」を取り上げることとなったのでしょうか。また、「情報」は地域の暮らしが変わったり、医療や仕事のあり方が変わるなどIoTの進化と生活との接点があって取り上げるのであればテーマとして選定した理由が理解できますが、ここで扱う「情報」は何をイメージしているのか教えてください。

【事務局】

昨年度のアーバンデザインスクール前期では「交通」をテーマに取り上げました。その中で、IoTの進化などにより例えばUberや交通問題を考える上での人々の行動の情報を取って初めて適切な空間配置ができるであろうということが結論として得ることができました。また、後期の都市の風景のつくり方と題して最新のタクティカルアーバニズムについても今までの尺度ではなくIoTの進化により簡単にデータを収集することができるようになるので、適切な空間配置のために情報を参考にすべきだという意見から今年度のテーマとして「情報」を取り上げています。

【D委員】

そもそもアーバンデザインセンターは市民と行政と民間企業等とを繋ぐ役目があると思います。その中で、草津の新たなまちづくりの調査研究提案といったものを「交通」と「情報」の掛け算で行うのであれば理解できますが、今の説明を聞かせていただいても理屈だけのようになります。今一度具体的なまちづくりの展開を掛け合わせて考えただけると幸いです。

【E委員】

先ほどから交通に係る具体的な政策について話題となっていますが、この2年間で草津市では3つの計画を策定しています。一つ目は立地適正化計画、二つ目は草津市版地域再生計画であり、この2つは国が推進しているコンパクトシティプラスネ

ネットワークのまちづくりのことで。立地適正化というのは、都市機能を市街地に集中させ、人口流動地域を設定して人口減少社会に備えてまちの機能の適正化を図ろうというものです。地域再生計画というのは、人口減少が進む郊外について地域活性化をどのようにするのかという計画です。それに加えて三つ目は地域公共交通網形成計画でございますが、この計画は将来の市街地と人口減少地域を結ぶネットワークもさることながら、草津駅と南草津駅の交通渋滞問題や駅への進入路の問題について、短期的・長期的な検討を行っています。昨年1年間で市民を交えて議論が進み、今年度にパブリックコメントを実施しますが、昨年度に交通に関することがUDCBKでどれだけ議論されたのか、そのような計画に関する議論を市で行っていたことを知っていたのか違和感を持ちました。

【A委員】

セミナーに参加していても、それがどうなるのかが見えません。セミナーの運営も実際に頑張っている職員と外で見ている職員がいて、セミナーの内容が市の中核の計画と関わっているのであれば職員が一丸となってセミナーを作り上げるべきであり、それが見えてこなかったです。それが今おっしゃったことに繋がるのだと思います。

【B委員】

先ほどの情報に関する説明は抽象度が高いと感じました。先ほどE委員がおっしゃったように、交通に関する計画は非常に大切だと思いますし、パブリックコメントで市民から意見をいただくことも難しいことだとは思いますが。交通に関する問題は、立地適正化計画や地域再生計画と深く関わっており、アーバンデザインにぴったりの内容です。できることならば、先ほどの御意見を踏まえた上で、「地域と交通」のように昨年度の内容を受けてテーマを設定された方が良いと思います。

【C委員】

びわ湖文化公園に滋賀県が新たに美術館や体育館を作る計画をしており、立命館大学・滋賀医科大学・龍谷大学が横軸で立地しているので、その間をどのように活性化していくのかということが課題になります。しかしながら、横軸だけでなく、JRまでの縦軸にどのように繋いでいくのかということも課題になります。そのようなことも念頭に置きながら、地域住民がまちづくりについてUDCBKで議論すべきなのかなと思います。

【座長】

びわ湖文化公園は山手幹線沿いに3大学に加えてパナソニックもあり、大きな組織が立地しています。それぞれを行ったり来たりするには自動車では簡単ですが、公共交通では難しいので、それをJRとの繋がりの中で考えることは大きな課題かなと思います。

【F委員】

交通に関しまして、山手幹線の横軸で考えるとともに、今おっしゃったようにJRへの縦軸が生活軸ですので、草津市に移り住んでいる人にとっても密接なものであり、課題であると思います。

【G委員】

アーバンデザインスクールを企画する上で毎年サブテーマを変えていくことはよく理解できるのですが、アーバンデザインセンターとしての機能を果たしていくとなると、数年間同じテーマを継続しても良いのではないかと思いますし、テーマも3つは多いのかもしれないですし、1つに絞って、それについて本気で考えるのも良いのかなと思います。そこに、「情報」のようなキーワードを付加して考えていくのも一つの手段ではないでしょうか。毎年テーマを変えないといけないと考えると、それにとらわれてしまうことになり、事務局の皆さんがそのことに苦労されているのであれば、アーバンデザインという時間軸を考えながら、アーバンデザインスクールなどと大きな課題をどのように接続させるのが事務局や我々の仕事であり、せっかくの企画がこなすだけのものになってしまうのが大変もったいないなと思います。

【H委員】

社会実験事前調査事業は、どのように提案すれば良いのかを教えてください。また、社会実験については、どのようにお考えなのかを教えてください。さらに、スクールやセミナーは市民等に課題意識を持っていただいたり、啓発することを目的にすることは良いかとは思いますが、せっかくこのように実施するのであれば、課題解決策案を出し、市や県で解決すべき内容を仕分けして行政と対話をしていかないと、ワークショップで課題を出して皆さんで勉強しましたというだけではいけないと思います。

【事務局】

社会実験事前調査事業につきまして、包括協定締結大学を対象としており、前年度に課題となったテーマについて事務局が提示しています。例えば、空き家の利活用検討や南草津駅周辺の賑わい創出などのテーマを提示させていただきました。UDCBKを活用しながらまちづくりにおける課題点を各大学の分野から調査研究できるような内容を御提案いただいております。その提案内容を事務局にて精査し、事業委託を行っています。この事前調査事業を数年にかけて積み上げた中で大きな社会実験に結び付けていくものとして考えております。セミナーにつきましては、例えば「交通」のような内容であれば、市の関係部署へ案内して職員が参加することもあります。UDCBK職員とセミナーに参加した職員が議論し、それを市の政策に反映させたり、計画の進捗状況をUDCBK職員が把握するというようなことはできていません。昨年度まではこのような状況でしたが、先ほどより懇話会として御意見いただいたり、日常からセミナーの内容を翌年度に反映するように御意見をいただくこともありますことから、今年度につきましては積極的に取り組んでいきたいと思っております。

【F委員】

テーマについては、セミナー等を開催してアウトプットすればそれは成果になりますし、様々なことを実施してまとめていくというスタイルでもう少し様子を見ながらも良いのかなと思っておりました。

【座長】

本日いただきました御意見として、「交通」という大きな課題がありますが、今年度の事業の中でどのように生かしていくのかは重要なポイントですので、事務局に受け止めていただいてセミナーや事業等に反映させていただきたいと思っております。また、テーマ設定について、必ずしも毎年変えているということではありません。テーマは何年かにわたって継続して追究していくことが必要だと思っておりますし、次年度のテーマ設定に生かしていただきたいと思っております。さらに、UDCBKの事業内容を市の施策にどのように生かしていくのかということがアーバンデザインセンターの役割ですので、次の段階で考えていただきたいと思っております。

【事務局】

ただいま皆さまからいただきました貴重な御意見は、センター長と副センター長と

協議し、皆さまの御意見が反映できるように再構築したいと思います。

【A委員】

UDCBKは何をすることでいいのかとよく聞かれます。その時に、まちを住みやすくするために草津市や大学などがいろいろとやっているところだと答えているのですが、まちを住みやすくするために何をしているのかと小学生などに聞かれると、職員の方はどのように答えますか。「まちを住みやすくするためにこのようなことをしているからセミナーをしています。だから参加してください。」と小学生にも分かる言葉で説明できるようにしてください。それが言えるようであれば、市民がついていくと思います。

【B委員】

スライド番号17・18で今年度のテーマとその概要が書かれており、スライド番号19でいきなりアーバンデザインスクールの内容になっているので、資料のまとめ方として改善の余地があると思います。加えて、説明がカタカナが多いので分かりにくいです。また、スライド番号21は「その他の予定」ではなく、アーバンデザインスクール後期の内容と未来創造セミナーの内容なのでUDCBKの重要な柱です。運営懇話会として表記方法を分かりやすくしてください。

【座長】

スライドのタイトルと内容が一致していないということですね。先ほどのA委員の御意見については、リーフレットがあるのでそれを使って説明するというだけでは不十分でしょうか。

【事務局】

今まではリーフレットがなくてA4用紙に印刷したものをオープンスペースに置いていましたが、小学生に何をすることでいいのかと聞かれた時に、今のリーフレットの中身では分かりにくいというのがA委員の御指摘かと思います。

【A委員】

リーフレットの内容は2年前の開設の時と同じなので、よく知っています。

【F委員】

スライド番号22の立命館大学理工学部建築都市デザイン学科有志による卒業設計展示とはどのようなものだったのですか。その展示により、まちづくりについて議論するような仕掛けがあったのか、また、作品を展示することで先ほどのような課

題を解決するような効果があったのであれば、UDCBKの事業の中でツールとして生かしていければ良いと思います。

【I 委員】

アーバンデザインセンターがまちを住みやすくするために課題認識をしていくということについては非常に期待される組織だと考えています。私は京都市の山科にある大学ですが、京都の問題を考える立場にある中で、京都が直面している課題として人口減少は例に漏れない状況で、出生率は全国ワースト3です。それに比べて滋賀県は出生率が全国トップ10に入っており、市民のターゲット層をどこにするのかということ考えた際に、草津のことを知る必要があると思います。また、実施した事業についても、関係部署へ繋いでいるということですので、それまでのプロセスをもう少し丁寧にお話しいただけると納得できるのかなと思います。

【座長】

ただいまの議論を事務局で受け止めていただいて、今年度の事業計画に反映できるものは反映して生かしていただきたいと思います。草津市、特に南草津の地域特性を捉えて、どのような課題をどのようなターゲット層に対してしていくのかということが重要であり、具体化していく必要があると思います。報告事項2つ目につきましては、これで終了とし、法人化の検討状況について検討ワーキング部会の座長であります肥塚委員よりお願いします。

【肥塚委員】

そうしましたら、検討ワーキング部会の座長を務めさせていただいております私から御報告させていただきます。今回、初めて御出席の方もいらっしゃいますので、少しおさらいをさせていただきます。アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業は市の事業でございます。UDCBKを発足するにあたり、当初から法人化することが可能かどうかを検討することが課題となっておりました。そこで、昨年度ワーキング部会で法人化が可能かどうかを数回にわたり議論し、具体的に検討してきました。今年度も一度ワーキング部会を開催しましたので、その議論状況を報告させていただきます。今回は論点提示的・課題列挙的な内容になり、具体的に何をどのようにするのかは次のステップとして捉えていただき、このようなことを解決しなければ法人化はできないといったことをお示しすることを目的として報告させていただきます。

(肥塚委員から、資料に基づき法人化の検討状況を説明。)

【座長】

法人化はUDCBKを設立した時からの課題であるということで、現在は市の事業として運営されていますが、そこから法人組織として運営していくのかどうかを検討されているということです。先ほどの報告につきまして、御意見・御質問がございましたらよろしくお願ひします。

【C委員】

一般社団法人の社員が個人と法人が混在する場合、どのような登記方法になりますか。

【肥塚委員】

個人名と法人名が併記されることになり、もし個人が変更となる場合は登記の変更が必要になります。

【C委員】

企業も社員という扱いになるのですか。

【肥塚委員】

そのとおりです。

【C委員】

個人と法人が混在できるということですね。

【肥塚委員】

そのとおりです。他のUDCでも確認しましたが、そのようになっているところもありました。

【C委員】

理事会を設立した場合、個人と法人で組織するというこですか。

【肥塚委員】

社員は個人と法人が可能ですが、理事は個人になります。

【C委員】

そのあたりの理解が難しいので、何かで分かるように示してほしいです。例えば、法人が社員となって、その中から理事を推薦した場合、その法人は理事会には参画しないということですか。

【肥塚委員】

参画する場合と参画しない場合があると思います。

【G委員】

理事は個人です。運用上、法人から充て職で理事になる場合も想定されます。

【座長】

社員は個人や法人として参画することが想定され、理事は個人として登記するということですね。可能であれば、一般社団法人として運営している他のUDCがあれば、その運営体制が分かるものがあれば分かりやすいですね。

【肥塚委員】

次回、参考資料として提示し、UDCBKとして想定する組織体系を提示させていただきます。

【C委員】

まちづくり協議会とは議論されていますか。

【座長】

ワーキング部会ではまちづくり協議会との話題は出ていますか。

【肥塚委員】

出ておりませんので、考えさせていただきます。

【座長】

運営懇話会にも草津市まちづくり協議会連合会から委員として参画していただいていますので、法人化した場合にもまちづくり協議会に参画していただくことは自然な流れになるのかなと思いますので、議論をお願いします。

【D委員】

個人意見としまして、独自の予算で事業展開する場合や、都市再生推進法人指定や法的地位を得るために法人化するのであれば法人化は理解できますが、今回の法人化の目的は何なのかがまだ分かりません。草津市は市民を対象にした活動レベルとしては、まちづくり活動の企画や実施、大学の力によるまちのデザインや研究といった段階であると考えますと、活動の連携はもう少し緩やかな段階なのではないかなと感じます。法人化によって何を担い、そのことにより草津未来研究所としては何を担うことになるのかといった整理ができるのかどうか疑問に感じております。

【F委員】

私も立場的に大学の中でUDCBKのことを説明することになりますが、大学として法人化した場合にどこまで関わるのかといったことの検討が必要になってきます。一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアムには大学として参画しているのですが、内部的にはそこの関わり方も大切になってきます。

【座長】

D委員から御意見をいただきました法人化によって何を目的にしているのかということとは法人化検討ワーキング部会でも議論されていますか。

【肥塚委員】

先ほど説明しましたように、UDCBKの実施事業内容の精査はD委員から御指摘いただきましたように法人化の目的の定義を念頭に置いておりまして、その再定義をしていこうと考えております。

【E委員】

法人化検討ワーキング部会において方向性を議論いただいておりますことに感謝申し上げます。法人化するかどうかの最終結論につきましては、検討状況を十分に鑑みて市として決定することになりますが、市の執行部と承認機関である議会に諮る必要があります。先ほど法人化検討スケジュールを拝見しましたところ、本日から6か月もあるとも考えられますし、逆に6か月しかないとも考えられます。法人化検討ワーキング部会を立ち上げて検討していただいていることは存じあげておりましたし、市議会においても質問がありましたので、その中で検討中であるという答弁を担当部長（理事）からしております。しかしながら、法人化検討ワーキング部会での踏み込んだ検討内容の報告については、市長へ報告されていない状況でございまして、それを受けての議会への報告もされておられません。そのことを考えますと6か月しかないという認識の方が正しいのかなと思います。ですから、客観的に見て無理なスケジュールではないかと思います。このことから、早急に市長まで報告し、議会へ検討状況を報告し、なぜ法人化するのか市民の皆さまにも理解を得られるような状況でないと法人化は難しいのではないかと思います。A委員からもお話がありましたように、UDCBKは何をすところ？ということが小学生にも分からないようであれば、市民の理解を得ることは難しいのではないかと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

【肥塚委員】

私も同様に考えておりました、法人化することを最短で考えた場合について御説明させていただきまして、最終的には市が意思決定されることが重要ですので、あくまでも最短で法人化を決定した場合をお示ししておりますことを御承知いただければ幸いです。

【座長】

最短での法人化スケジュールは平成31年4月ということですが、各構成団体での議論もごございますし、市民や議会への理解もありますので、そのことを踏まえて最終的な判断をしていくということになります。本日は、今年度第1回のワーキング部会の検討状況の内容の報告を運営懇話会として承ったということで、各構成団体におかれましては、その内容を踏まえて議論いただきたいと思います。第2回のワーキング部会は8月末に開催予定ですので、その内容を受けて9月に第2回運営懇話会を開催する予定をしておりますので、そこでさらに検討状況を報告いただきたいと思います。

【E委員】

スライド番号33の法人化に係る項目別比較表は、有利・不利・どちらとも言えないという表現ではなく、◎・○・△・×という表記の方が分かりやすいと思います。

【座長】

それでは、法人化につきましては以上とさせていただきます。そうしましたら、平成30年度第1回運営懇話会につきまして、終了とさせていただきます。第2回につきましては9月を予定していますが、日程は後日事務局から調整させていただきます。本日はこれにて終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。